

# 教育課程とカリキュラム

愛知教育大学は、広域の拠点的作用をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。この使命を達成し、ディプロマポリシーに基づいた学生を育成するために、全課程の学生が受講する「共通教育科目」と、学校教員養成課程・教育支援専門職養成課程それぞれで学びを深める「専門教育科目」で教育課程を編成・実施しています。

全課程の学生が受講する科目です

## 共通教育科目

- 教養科目
- 外国語科目
- 日本国憲法
- スポーツ科目
- 情報教育入門
- があります。

### 教養科目の科目群

#### 基礎 教養科目

##### 初年次演習、キャリアデザイン科目

多様な学修歴を有する入学者に対応できるように、大学生活や社会に出る準備段階としての学修意欲を高め、学習規律を身に付けます。

##### 課題探究科目 (市民リテラシー/多文化リテラシー/科学リテラシー/ものづくりリテラシーから2科目を選択)

学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」「解決に導く力」等の主体的な問題発見及び問題解決能力や能動的な学修活動能力を育成します。

##### 教職教養科目 (教職論/教育原論/特別支援教育基礎/発達障害のある児童生徒理解基礎)

教育実践を支える職業人の役割について考えるとともに、新しい持続可能な社会に向けた、ユニバーサルデザインの学校教育の基盤について、多面的に捉えて理解します。

#### 教育実践 教養科目

##### 現代的教育課題対応科目 (ジェンダー・セクシュアリティと教育/外国人児童生徒支援教育/情報の活用と管理/学校保健・学校安全)

学校現場で対応の要望が高まる外国人児童生徒支援教育、学校安全等を題材に、新しい教育の機会均等やマネジメントの在り方について探ります。

##### 実践力育成科目

実践力育成科目は、子どもの生活実態を知り、子どもとのコミュニケーション能力を養い、感性を磨くなど、教育実践を支えるための実践力を高めることを目的としています。入学後早い段階で、居住地の小中学校等を訪問して体験的に児童生徒の学びや学校生活に触れる「学校体験活動入門」を行い、2年次は、県内の教育施設等にて、教育活動の補助を週1回のペースで実践する「学校体験活動Ⅰ」があります。3・4年次は、「学校体験活動Ⅱ」、「地域協働教育体験活動」の2科目から1科目を選択し履修します。

1年次

2年次

3・4年次

学校体験活動入門

必修

学校体験活動Ⅰ

必修

学校体験活動Ⅱ・地域協働教育体験活動

選択

(2科目から1科目履修)

### 先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻  
保健体育専修3年  
愛知県立半田高等学校出身

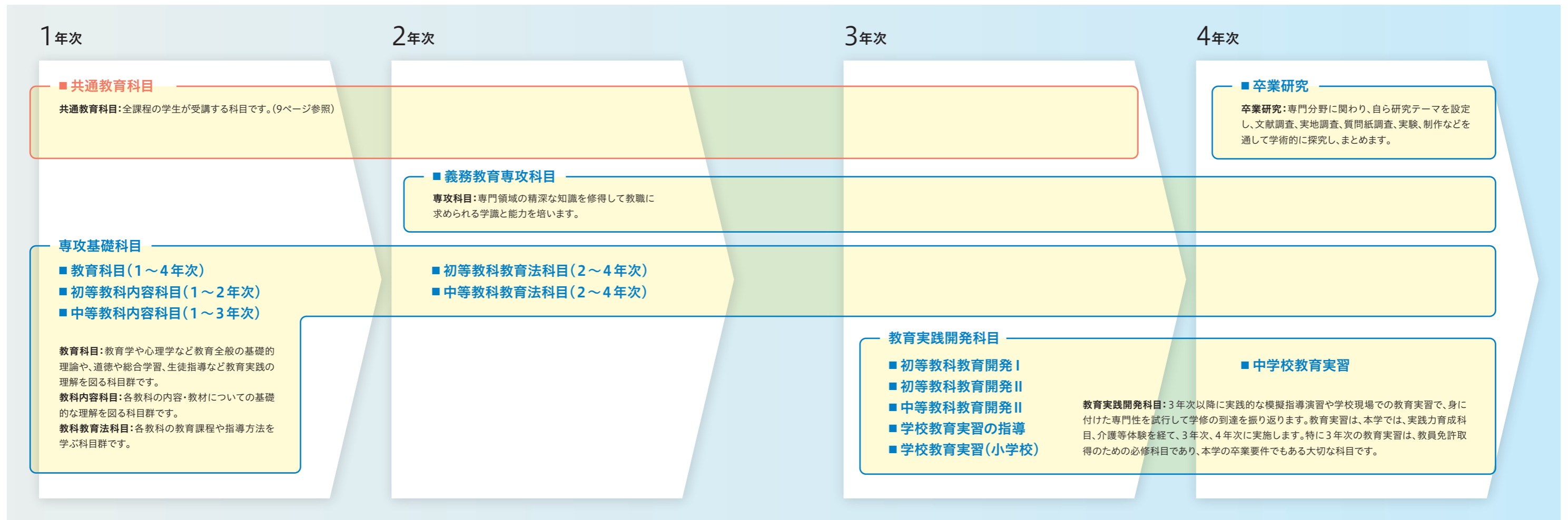
子どもたちとのかかわり合いのなかで得られる学びがある。  
座学では得られない「教員のやりがいや楽しみ」を実感。

「学校体験活動入門」で中学校へ、「学校体験活動Ⅰ」で小学校へ訪問。「子どもたちに積極的に話しかけよう」という気持ちで臨んだ「学校体験活動Ⅰ」では、小学生と中学生との違いや指導方法の違いを学ぶことが楽しみでした。小学生は中学生と違い、身体的にも精神的にも未発達なことが多いので、子どもから目を離すことができません。思い通りにいかず苦労しましたが、元気に話しかけてくれる子どもたちと過ごす時間は楽しく、体験活動の終わりに一人の児童から手紙をもらった時は感激しました。体験前よりも教員という職業の良さを見つけることができ、教員になりたいという気持ちが一層強まりました。次の体験活動でもさらに多くのことを学びたいと思います。

# 学校教員養成課程 4年間の学び

義務教育専攻教科指導系10専修における履修例

■ 共通教育科目 ■ 専門教育科目



## 教育実習、介護等体験

学校教員養成課程では、教員免許取得のため、1・2年次に「介護等体験」を、3・4年次に「教育実習」を行います。



### ■ 介護等体験 | 1・2年次 小・中学校の教員免許取得に必須

体験的学修として小学校および中学校の教育職員免許状(教員免許)を取得しようとする者が必ず履修しなければならないものです。一般的な介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する直接的な特別支援、介護、介助だけでなく、話し相手、散歩の付き添い、行事の補助などの交流等の体験など幅広い活動が予定されています。体験内容はそれぞれの学校、施設等で異なります。

### ■ 学校教育実習 | 3年次 必修

卒業要件として履修が必須の教育実習です。「学校教育実習」では、実習態度や、幼児・児童・生徒の理解と指導、学級・保健室経営や保育活動、道徳指導について特に重視をした実習を行います。

### ■ 学校種別実習 | 4年次 選択 ※ただし、特別支援教育専攻学生は必須

学校教育実習とは別の校種の教育実習です。学校教育実習での経験を生かしつつ、さらに学生が専攻する専門性に則った学習指導の個人立案や、自己課題の解決活動について特に重視をした実習を行います。

## 教育実習 先輩Voice



初等教育教員養成課程 教育科学選修4年(当時)  
愛知県立大府東高等学校出身

\*学生の所属は改組前の名称です

### 🕒 実習先(中学校)でのある1日のスケジュール

6:00~7:00 起床、準備	8:45~ 9:35 1時間目 2年2組「国語」観察	14:20~15:10 6時間目 指導案づくり、教材研究
7:00~7:40 実習先へ移動	9:45~10:35 2時間目 指導案づくり、教材研究	15:10~15:20 帰りの会
7:45~8:15 授業準備、一日の流れを確認、各担当の先生に授業見学をお願いに行く	10:45~11:35 3時間目 2年4組「数学」参加	15:20~15:35 清掃
8:15~8:25 朝の挨拶(正門で挨拶運動)	11:45~12:35 4時間目 12組(特別支援学級)「作業」参加	16:00 生徒下校
8:25~8:35 職員打ち合わせに参加	12:35~13:00 教室で一緒に昼食	16:00~18:00 指導案づくり、教材研究、授業準備、模擬授業
8:35~8:45 朝の会	13:00~13:20 休み時間(学級で野外活動に向けてダンスの練習)	18:00~18:40 帰宅
	13:20~14:10 5時間目 1年3組「社会」観察	

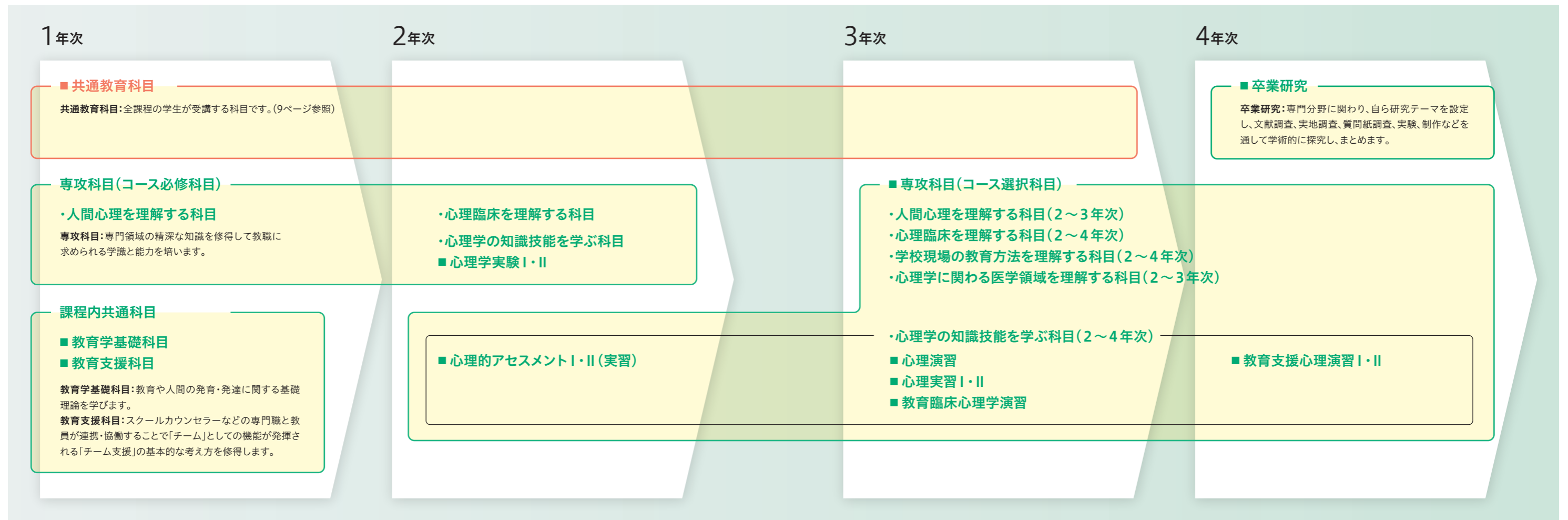
はじめは真似しかできなかったのが、自分なりに授業展開を考え、実践へ。  
小・中学校両方を経験したことで、小学校教諭になりたい思いを再確認。

3年次に小学校、4年次に中学校での教育実習へ。専攻教科である国語の模擬授業をひとりで行ったことがなかったので、きちんと授業ができるのか不安でした。教育実習では、指導案を自分で作成し、授業後に先生方から指導をしていただけます。はじめは担当の先生の授業を真似することで精いっぱいでしたが、最後には自分なりに授業展開を考え、実践することができたので大きな学びとなりました。同じ実習生の模擬授業を見ながら授業の展開について考えたことも印象的です。どの生徒にもわかりやすく、おもしろいと感じてもらうにはどうしたらいいか、議論したこともよい思い出です。小学校、中学校を経験したことで、子ども一人ひとりと長く関わり、学級づくりをしたいという自分の思いに気づけたことも大きな収穫でした。実習最終日には生徒が「先生がいなくなるのは寂しい」といってくれて、生徒との関わりを大事にしてよかったと実感できた出来事でした。

# 教育支援専門職養成課程4年間の学び

心理コースの履修例

■ 共通教育科目 ■ 専門教育科目



## 心理実習、福祉実習、学校・自治体インターンシップ等

教育支援専門職養成課程では、主に3年次に「心理実習」、「福祉実習」、「学校・自治体インターンシップ」等の実習科目を開設しています。これらの実習は卒業要件ではありませんが、「心理実習」は公認心理師、「社会福祉実習」は社会福祉士試験の受験資格取得のために必要となる科目です。

教育支援専門職養成課程で目指せる資格、取得できる資格については15ページ参照

コース	主な学外実習科目	実習時期	実習の概要
心理コース	心理実習Ⅰ	3年次前期	保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の5領域における見学等の実習を行います。この実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携及び地域連携、③職業倫理及び法的義務についての概要と実際を理解することを目標としています。
福祉コース	社会福祉実習Ⅰ	2年次後期	それまで学んだ社会福祉に関する知見を、児童・障がい、高齢領域などの現場での実習を通して理解を深めます。ソーシャルワークが必要とされる現場の理解、ソーシャルワークの知識・技術を実習から理解します。さらに、教育現場でのスクールソーシャルワーク実習も行います。
	社会福祉実習Ⅱ	3年次前期	
	スクールソーシャルワーク実習	4年次前期	
教育ガバナンスコース	学校・自治体インターンシップ	3年次前期	学校・自治体等において、教育行政や学校事務のマネジメントや職務の遂行にかかわる体験を通して、大学でのキャリア教育・専門教育を推進するとともに、大学での教育研究・学修と学校・自治体での体験を結び付けることを目標としています。

### 心理実習 先輩Voice



教育支援専門職養成課程 心理コース4年  
愛知県立津島高等学校出身

支援が必要な人々の背景は複雑で、支援策も千差万別。だからこそ多くの学びが必要で、やりがいもあることを知れました。

保健・医療領域、教育領域、福祉領域、司法領域の心理実習を経験。なじみのない施設に足を踏み入れることに対して、緊張感でいっぱいだったことを覚えています。一方で、事前学習の時に気になっていた疑問を現場で働いている方々に直接聞いてみたいという気持ちもあったので、貴重な機会を無駄にしないよう、聞きたいことは前もってまとめておくなどの事前準備も入念に行っていました。

特別支援学校での実習では、その学校に勤務している教員やスクールカウンセラーの方々に話を聞いたり、施設見学も兼ねて授業の様子を観察したりします。多職種連携や他職種協働の難しさややりがいについて生の声を聞くことができ、座学では得られない学びがありました。また、支援を必要としている人の背景はとても複雑であり、人によって適切な支援策は全く異なることを実感。近年は不登校などの問題に社会全体から関心が寄せられるようになり、カウンセリングや心理支援の需要が高まっています。現場ならではの学びが得られたと同時に、心理学は奥が深く、もっと勉強が必要なのも痛感しました。

#### 🕒 実習先(特別支援学校)でのある1日のスケジュール

6:00～7:00	起床、準備	9:00～9:15	実習開始、特別支援学校の概要説明	11:00～11:40	スクールカウンセラーの方による講話
7:00～8:30	実習先へ移動	9:20～10:40	学校内の施設見学	12:00	実習終了、解散
8:45	実習先到着	10:40～10:55	施設見学終了、休憩	14:00	帰宅